



国立病院機構(NHO)宇都宮病院 院内広報誌

わかあゆ

WAKA - AYU



基本理念

私たちは 地域から強く信頼される病院を目指します
そのために 誠実で前向きで勤勉であるよう努めます

目次

20 **秋** 18
第49号
広報誌 / 年4回発行
発行：国立病院機構 宇都宮病院
発行日：平成 30年10月1日
発行責任者：沼 尾 利 郎

- | | |
|--|--------------------|
| ■ 宇都宮病院の取り組みと将来構想 ……1 | ■ 重症心身障害病棟の行事 ……5 |
| ■ 脳神経内科への標榜変更と
医療介護連携支援ステーション開設 ……2 | ■ 出前講座の実施 ……5 |
| ■ ニューフェイス インタビュー ……3 | ■ リレーフォーライフ初参加 ……6 |
| | ■ エアテントの設置訓練 ……6 |

宇都宮病院の取り組みと将来構想

(理念：信頼・誠実・勤勉)

事務部長 関川 義明

昨年4月に宇都宮病院に着任してから早1年半が過ぎました。診療面において、昨年「リウマチ膠原病内科」が開設され、新たに放射線科、小児科、麻酔科医師が加わり、更なる診療機能の充実が図られているところです。今回、今までに組みを行っている内容と将来構想について、ご紹介いたします。

1. 障害者歯科医療（平成29年4月～）

地域における障害者の利便性を改善し、障害者が住み慣れた地域で適切な歯科医療を受けられるようにするため、栃木県からの要請を受けて、障害者（小学生以上）を対象とした全身麻酔等による歯科医療を開始しました。

現在、とちぎ歯の健康センターにて診断のうえ、当院にご紹介いただき、毎週金曜日（予約制）にて障害者歯科専門の石川博之先生が診療を行っています。

※入院治療件数：29年度26名、30年度20名（4～8月実績）

2. 出前講座の開設（平成29年9月～）

地域住民の皆様の健康づくりをサポートするために、病院職員が皆様のもとに伺い、健康に役立つ情報をお話ししていますので、是非ご利用ください。

現在までに自治会、老人会などの地域の団体様から17件の依頼を受けました。

3. 医療・介護連携支援ステーション事業（平成30年4月～）

本事業は、市民が重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、医療・介護連携を支援する窓口を設置することにより、在宅医療と介護サービスを市民に一体的に提供する体制の構築に資することを目的として、開始されました。

当院は市内の東・北ブロックの「宇都宮市医療・介護連携支援ステーション」として「医療・介護連携支援センター（宇都宮市医師会）」及び各地区の「地域包括支援センター」と連携し、以下の事業に取り組んでいます。

- 1) 宇都宮東・北ブロック連携会議（年4回開催）
- 2) 医療・介護連携支援研修会（年2回開催）
- 3) 地域包括支援センターからの相談への対応及び支援（随時）
- 4) 地域ケア会議への支援（随時）

● 将来構想「病棟等建替整備」（外来・病棟）

平成26年11月に北病棟（重症心身障害病棟100床、地域包括ケア病棟60床、一般病床30床＋結核病床30床のユニット病棟、手術室5室、リハビリテーション室）が完成し運用しているところですが、外来管理棟の老朽化や将来の地域医療構想を見据えた診療機能等を強化するため、新たな「病棟等建替整備計画」を進めています。

詳細が決定しましたら、別途お知らせいたします。



新棟外観イメージ

脳神経内科への標榜変更と 医療介護連携支援ステーション開設

内科系診療部長 伊藤 雅史

平成 19 年 4 月に獨協医科大学病院から当院に派遣され、病院改革プロジェクトの一つとして神経難病病棟を立ち上げ、その当時、宇都宮市に認知症センターがなかったため、認知症外来開設、認知症講演活動などをさせていただくようになり、気が付けば早 12 年の勤務年数となりました。無駄に長いおかげで、内科系診療部長、地域医療連携室室長、医局長、褥創 NST 委員会など雑務が増える一方であります。今回の私への原稿依頼には、2 つテーマがありますので紹介します。

まずは神経内科の標榜名についてですが、平成 29 年 9 月 16 日開催の日本神経学会理事會にて、学会として標榜診療科名を「神経内科」から「脳神経内科」に変更することが決定されました。わが国で「神経内科」の標榜が認可されたのは 1975 年です。心療内科や精神科と混同されることがある一方、脳卒中や認知症などのコモンディジーズを専門的に診療する科であることが広く知られていない事が今回の変更に至った理由の一つであります。

獨協医科大学病院神経内科も標榜名変更することが決まっていますので、当院も、学会、大学病院にならって変更することとなりましたので周知をよろしくお願いいたします。

平成 30 年 4 月より、当院に医療介護連携支援ステーションが開設されました。宇都宮市の高齢福祉課からの委託事業であり、宇都宮市を 5 ブロックに分け、当院は東・北ブロックを担当することとなりました。目的は、市民が重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で暮らし続けることが出来るよう、医療介護連携を支援する窓口を設置し、在宅医療と介護サービスを市民に一体的に提供できる体制を構築することです。当院は元々これまでも地域の在宅相談対応は行っておりましたので、実際に何か業務が大幅に変わったわけではありません。しかし、各包括支援センターには確実に周知されましたので、より相談しやすくなったのではないのでしょうか。また、社会問題となっている認知症診療支援も業務の一つであります。その他、包括支援センター職員対象のブロック連携会議（年に 4 回）、地域の多職種を集めて行う医療介護ネットワーク研修（年に 2 回）を実施し、症例検討会や勉強会を通して日々の診療介護のスキルアップを図るお手伝いもしております。結果、より当院への相談件数が増え、皆さんの負担が増えるかもしれませんが、地域を支える当院の使命として、今後とも協力の程よろしくお願いいたします。



第 1 回ネットワーク研修 宇都宮東・北ブロック
（河内総合福祉センターにて）



「夏と言えばプール!」



保育士 深澤 仁美

重症心身障害病棟には夏のイベントがたくさんあります。綿あめやたこ焼きの香り漂う夏祭り、夜空を彩る花火会、そして真夏の太陽の下みんなでお楽しむ「プール活動」です。

太陽がキラキラと照りつけ、蝉の音が聞こえてくるとプールの季節がやってきます。重症心身障害病棟のプールは北病棟の東側、屋外に設置されています。活動は午後ですが、午前中から水を溜め始め、外気温や水温に注意しながら37度前後の温水を入れます。水の溜まるバシャバシャという音が聞こえてくると、利用者の皆さんは自分の順番が来るのを今か今かとドキドキワクワクしながら待っています。プールには、利用者さんは水着を着用し、職員と一対一で浮き輪を使用して入ります。水着は大人用から子供用まで、水中で色が変わるものやひらひらフリルの付いたものまで様々な色や形のものを準備しています。利用者さんの中にはかわいい水着を着ることを楽しみにしている方もいて、自分で水着を選び、職員に「ステキ!」と声をかけられ嬉しいような、ちょっと恥ずかしそうな笑顔をたくさん見ることもできます。今年度は天気にも恵まれ、予定していたほとんどの利用者さんがプールに入ることができました。私たち療育指導室の職員も利用者さんと一緒にプールに入り、活動を盛り上げます。シャワーで雨を降らせたり、シャボン玉をたくさん飛ばしたり、アヒルやくじらの玩具を浮かべせたり、いつもプールの中は賑やかで職員や利用者さんの笑い声の絶えない楽しい時間となります。



みんなでハイチーズ!

重症心身障害の皆さんにとってプール活動には様々な良い点があります。普段緊張の強い利用者さんが水に入るとスッと力が抜けリラックスして身体を伸ばすことができたり、浮力を利用し、まるで本当に泳いでいるかのように手足を自由に動かすことができたり、私たちも驚くような利用者さんの新たな一面を発見することもできます。毎回活動には看護師さんにも参加していただいています。プールに入る前や入った後の健康チェックや、プールサイドに吸引器の準備など活動の安全面を支えてくれています。看護師さんがいることで気管切開をしている利用者さんや発作のある利用者さんも安心してプールに入り、活動を楽しむことができます。



泳ぐの上手でしょ!!

プール活動は、シーズン毎の活動ということもあり、始まる前には他職種が集まり、必ずデモンストレーションを行います。その際の様々な意見を生かし、より安全でプライバシーにも配慮した良い活動となるよう試行錯誤しながら毎年進めていきます。プール活動を安全に楽しく行うためには医師や看護師、療養介助員など病棟の皆さんの協力が不可欠です。皆さんの協力があってこそ安全で楽しい活動となるのだと思います。今年度のプールは終わってしまいましたが、また来年、プールに入って笑顔になる利用者さんの姿を思い浮かべながら夏の季節を楽しみにしたいと思います。



出前講座行ってきました!!

理学療法士長 飛田 直樹

金井台2区「ひまわりの会」【4月13日(金)】、下田原町「さざ草会」【6月26日(火)】、峰地区「宇大南自治会、平松ひかりが丘自治会(合同)」【7月13日(金)】の方々に対し、出前講座を実施致しました。題名はそれぞれ「腰痛予防～日常生活での注意点～」です。最初15分は事務部長が当院の紹介を行い、その後の45分間「腰痛予防」の講座を実施致しました。腰痛の原因、腰回りの構造、日常生活動作での注意点、自宅にて実施出来る腰痛予防体操などの話を、実技を交えて実施致しました(宇大南自治会、平松ひかりが丘自治会に対しては時間の関係上講座のみ)。皆さん、熱心に聞いて頂き、また、終了後も多くの質問があり、腰痛に対する関心の高さを感じました。

当院リハビリテーション科の出前講座の目的は「運動の習慣化」を定着させることです。これは腰痛予防だけではなく、転倒予防、ロコモティブシンドローム予防や健康寿命を延長することに対しても必要であると考えます。この出前講座を通じて、「ひまわりの会」「さざ草会」「宇大南自治会、平松ひかりが丘自治会」の方々に「運動の習慣化」の必要性を分かって頂いたと思います。

今後も出前講座を通じて、市民の方々に「運動の習慣化」の必要性を知って頂き、地域貢献できればと考えています。

『リレー・フォー・ライフ2018とちぎ』に初参加しました!

臨床研究部長・がん診療部長 芳賀 紀裕

「リレー・フォー・ライフ」とはがん患者さんとその家族を応援し、ひいては社会全体でがん制圧を目指す、チャリティイベントです。がん患者さんは24時間、がんと闘っているため、この趣旨に賛同する者が仲間チームを組んで交代で24時間夜を徹してトラックを歩き「いのちのリレー」と呼ばれます。それに併せていろいろなイベントが開催され、暗くなるとトラック周囲に置かれた、それぞれの想いを込めたメッセージを書いたルミネリエバック（これはイタリア語でイルミネーションのことです）に火が灯ります。このイベントは1985年にアメリカで発祥し、現在は世界各国で開催されており、日本では2006年茨城県を皮切りに全国に広まり、栃木県では今年7回目が壬生町総合公園陸上競技場で9月8日正午～9日正午にかけて開催されました。

当院は2013年栃木県がん治療中核病院に指定され、緩和ケアチームも活動を開始しております。リレー・フォー・ライフへの参加は以前より考えておりましたが、なかなか実現しませんでした。しかし昨年、まず数名で見学にでか



リレーフォーライフ

け、今年初めて参加させて頂きました。初回参加のため、わからないことも多く不安もありましたが、最終的には20余名の参加者が集まりなんとか24時間歩くことができました（夜間は2名のリハビリスタッフで頑張りました）。なんとなく敷居が高く感じておりましたが、実際に参加して当院にかかわるがんサバイバーとの出会いや、他の多くの方たちと気持ちを共有することができ実りあるものになりました。来年はさらに大勢で参加し、できればがんの啓蒙につながるメッセージを出したいと思っております。今後とも、これらの活動を通して、地域のがん患者さんやそのご家族にとって身近で、相談しやすい病院を目指したいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

エアーテント設置訓練の実施について

庶務班長 白湯 慎一



9月13日（木）、当院で、宇都宮市保健所主催によるエアーテントの設置訓練を行いました。震災など大規模災害が発生した際、地域への医療支援を行う体制を整えるためです。このエアーテントが救護所になります。

エアーテントは、文字通り空気を入れて膨らませるテントで、電動ポンプで空気を入れると、あっという間に大きくなり完成しました。因みに電気が使えないときには、大変ですが、手動ポンプでも膨らませることができます。

災害が発生した際は、医師会、薬剤師会などの医療スタッフが当院へ駆けつけ、搬送や治療の選別をする「トリアージ」を行います。そして、被災者へ応急処置を行ったり、重症度に応じて後方病院へ搬送したりします。当院は、そのような場を提供する可能性があるため、地域の医療スタッフと共にこのような訓練を行ないました。

エアーテントは、膨らませるとなかなかの広さになります。医師会、薬剤師会のほか、近隣医療機関、当院の医療スタッフが訓練に大勢参加しましたが、実際に組み立てるのは初めての方も多く、設置方法・広さなどを丹念に確認していました。



編集後記

春の七草は食べるもので、秋の七草は観賞するものと言われており、山上憶良の歌が由来の七草です。「秋の野に咲きたる花を指折りかき数ふれば七種の花」「萩の花尾花葛花なでしこが花をみなへしました藤袴朝顔が花」萩の花＝ハギ、尾花＝ススキ、葛花＝クズ、なでしこが花＝ナデシコ、をみなえし＝オミナエシ、藤袴＝フジバカマ、朝顔が花＝キキョウ、の7種類になります。この中には、扁桃炎などで使われる薬「桔梗湯」やかぜを引いたときに使われる薬「葛根湯」の成分になっている植物があり、鑑賞だけでなく漢方薬としても使われています。これから寒い季節になりますが、かぜをひいて葛根湯のお世話にならないよう、体調管理に気をつけたいですね。

薬剤部 秋元 朝行



【半月山より中禅寺湖 男体山】
表紙撮影：渡部 孝夫さん(元職員)

外来診療担当医表

(平成30年10月1日～)

診療科名		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
総合内科	午前	黒木 知則		黒崎 史朗	沼尾利郎(第2・4・5週) 志水太郎(3週)	志水 太郎 (第1・2・4・5週)
糖尿病・内分泌内科	午前	佐藤 稔	菊池 朋子	西田 舞	佐藤 稔	森 豊
	午後	佐藤 稔		平尾菜々子	佐藤 稔	
脳神経内科	午前	作田 英樹			伊藤 雅史	
	午後	作田 英樹			伊藤 雅史	
物忘れ外来(午後・予約制)				伊藤 雅史		
消化器内科	午前	常見美佐子	菅谷 洋子	渡邊 詔子	菅谷 洋子	前田 光徳
	午後	常見美佐子	菅谷 洋子		菅谷 洋子	前田 光徳
呼吸器内科	午前	沼尾 利郎／ 梅津 貴史	野村 由至／ 武田 啓太	安西真紀子	梅津 貴史／ 藤松 孝旨	野村 由至／ 池田 直哉
	午後	沼尾 利郎	武田 啓太	安西真紀子	黒崎 史朗／ 藤松 孝旨 黒木 知則	池田 直哉
禁煙外来(保険適用) (午後・予約制)					藤松 孝旨	沼尾 利郎
リウマチ膠原病内科				高村 雄太		
小児科	午後	影山さち子 [予約制]			影山さち子 子供療育相談ルーム [予約制](2・4週)	影山さち子 [予約制]
外科	1 診	増田 典弘	芳賀 紀裕	滝田 純子	増田 典弘	芳賀 紀裕
	2 診	芳賀 紀裕	柴崎 雄太	芳賀 紀裕	山口 悟	滝田 純子
	3 診					田嶋 公平 (呼吸器外科)
整形外科	1 診	田中 孝昭	茶藷 昌明	田中 孝昭 (第2・3・4週)	茶藷昌明(第1・3・5週) 石川義久(第2・4週) (初診のみ)	熊谷 吉夫
	2 診	小牧 宏和	種田 雅仁	秋山昇士(第1・5週) 茶藷昌明(第2・4週) 熊谷吉夫(第3週)	小牧宏和(第1・3週) 種田雅仁(第5週)	秋山 昇士
リウマチ科 (整形外科1診)				熊谷吉夫(第1・5週) 田中孝昭(第2・3・4週)		
リハビリテーション科				茶藷 昌明	茶藷 昌明	熊谷 吉夫
装具外来		田中 孝昭				熊谷 吉夫
側湾症外来					茶藷昌明(4週)	
障害者歯科						石川 博之

外来受診案内

- 初診及び予約のない方の外来診療受付時間は、8:30～11:00迄です。
緊急で来院される場合は、電話でお問い合わせ下さい。
- 物忘れ外来につきましては、地域医療連携室にて電話での予約を受け付けております。
- 地域医療連携室 TEL 028-673-2374(直通) FAX 028-673-1961(直通)
担当(ソーシャルワーカー)：永山・吉田・福富・高德・浦瀬(内線133)

- 下記は入院患者さんを中心として診療しております。

診療科名		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
循環器内科	午前		田所寿剛(1.3.5週) 伊藤 致(2.4週)	鈴木菜穂子		伊藤 致(2.4週)
	午後	渡邊 諒 (15:00～16:30)	田所寿剛(1.3.5週) 伊藤 致(2.4週)	鈴木菜穂子		伊藤 致(2.4週)
歯科		渡辺 裕子	渡辺 裕子	渡辺 裕子	渡辺 裕子	渡辺 裕子
眼科(午後)						松原 忠之
皮膚科(午後)				西川 聡一		
耳鼻咽喉科(午後)		永島 祐美				

- 診療時間は8:30～17:15迄です。
- 休診は土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)です。
- 都合により臨時休診になる診療科もありますので、ご確認のうえ、ご来院ください。



独立行政法人(NHO)

国立病院機構 宇都宮病院

〒329-1193 栃木県宇都宮市下岡本町2160

TEL 028-673-2111 FAX 028-673-6148

<http://un-hosp.jp/>